

調布市下水道事業経営戦略2025(素案)へのパブリック・コメント

「御意見の概要」及び「市の考え方」のポイント

意見 1 資金残高の見通しが悪化した理由

「調布市下水道ビジョン」(令和3年3月策定)では、令和12年度時点で資金残高が26億円と推計しているが、今回の「経営戦略 2025(素案)」では、資金残高は令和14年に枯渇するとなっているのはなぜか。

<市の考え方>

①一人当たりの有収水量の減 ② 東京都流域下水道維持管理負担金の増 ③ 物価高騰による費用増 などの要因により、資金の枯渇時期が早まったためです。

意見 2 災害対策については一般会計でも負担すべき

建設改良費を押し上げる要因となっている、根川雨水幹線への定置式ポンプ設置事業費や地震対策事業費は、一般会計でも負担すべきではないか。

<市の考え方>

「雨水公費・汚水私費」の原則に基づき、雨水処理に関する経費は一般会計(公費)で負担します。一方、汚水分については、公営企業の経営は独立採算が原則となっているため使用料収入(私費)等で賄うこととなります。

上記原則に基づき、根川雨水幹線への定置式ポンプ設置事業費は雨水処理経費のため一般会計の負担。地震対策事業費についても雨水処理分は一般会計が負担します。

意見 3 支払い能力に応じた使用料体系にすべき

市民生活の安定や市内産業の振興という観点から、利用者の支払い能力を考慮して使用料は値上げすべきではないか。

<市の考え方>

公営企業の経営は「独立採算」及び「受益者負担」が原則です。下水道使用料の改定にあたっては、使用量の増加に応じて高くなる累進使用料制を基本として、標準世帯における平均使用水量を考慮するとともに、事業環境が類似する他自治体との比較などにより決定します。

以上